

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170401764), 法人名 (株式会社 ハートケアライフ), 事業所名 (グループホーム ハートケアライフ八軒 ひだまり), 所在地 (札幌市西区八軒5条西3丁目3-26), 自己評価作成日 (令和3年1月4日), 評価結果市町村受理日 (令和3年2月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

〈特に力を入れている点〉
ご居者に「制限をされている」と感じさせることのない言動を職員の共通認識としてケアに当たっていることです。
〈アピールしたい点〉
ご入居者に張りのある生活をして頂くための取り組みをしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kan=true&JigyosyoCd=0170401764-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年1月27日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所へはJRや地下鉄、バスが利用でき、郵便局、スーパー、都市公園、菓子店等が建ち並ぶ住宅街に立地している。
運営推進会議は、現在書面会議とし、多種多様な推進委員に予め会議内容を書面で周知し、感染予防対策等の取り組みに対して意見や感想を得て議事録を作成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの理念を職員で共有するため、カード式にして携帯するとともにユニット内に更に分かりやすい言葉で掲示しています。新採用時には、丁寧に教育をしています。	運営理念は「ハートあるふれあいと支え合い」をキーワードとし、具体的な内容を5項目で表現している。さらに理念を踏まえた目標をユニット毎に策定し、日々の業務で実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	従来はハートカフェや歌のボランティアを受け入れたりして地域の方との交流が多かったが、令和元年の年末から感染が拡大し始めたコロナウィルスのためすべて中止しています。	例年行われていた地域交流は自粛しているが、地元住民からは、畑作りの指導や花の寄贈があり、事業所は感謝の意を表している。介護相談には、地域資源としての役割を認識した対応に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルスのためすべての活動を中止しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議参加者にホーム内の様子が分かりやすいように、資料をお渡しして貴重なご意見を頂いています。頂いた提案は、全職員に「議事録」で周知して日常のケアに生かしています。	多種多様なメンバー構成になっており、実際の開催と書面会議で行われている。現況報告や取り組み事項等に対して多角的な視点での意見や提案があり、運営の向上に生かしている。外国の実習生に対して参加者から温かい言葉がかけられている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて施設長・管理者が市町村担当者と連絡を取り、協力関係を築くよう取り組んでいます。	行政の関係機関とは主に施設長が対応し、管理者は補佐的立場にある。運営推進会議は、西区介護予防センター八軒で開催するなど、行政とは良好な関係を構築し、関わりから得た意見や情報を運営に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」に関する会議を行い、話し合うことで職員の身体拘束に関する意識が高まり、自分の姿勢を振り返る機会ともなっています。多動な方、不穏な方の対応も身体拘束をしないという前提でケアを行っています	指針の整備、適正化委員会や研修会、勉強会はユニット毎に定期的に開催し、拘束や虐待をしないケアの周知徹底に努めている。利用者が嫌だと思ったことは不適切であるなど、管理者始め職員間に於いても注意を促し、ケアの基本に立ち戻っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修にはコロナウィルス感染予防のため参加できていませんが、職員間で日常的に「今の対応が本人の立場に立っているか」を考え、注意合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、権利擁護に関する制度を学んでいます。必要があるときは施設長が対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定は施設長が十分な説明を行い、利用者やご家族の不安や疑問に答えて納得していただいた上で行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前回の外部評価で、外部評価時のアンケートのほかにホーム独自で行ってはどうかとの助言を頂き、8月にアンケート回収して玄関に季節の花を飾るなど運営に反映させています。	家族アンケートで満足度調査を行い、要望に応じ玄関に生け花が飾られている。家族には、ユニット毎に写真掲載の「ハートだより」や介護記録、担当職員による手紙で日常の様子を伝えている。利用者や家族から出された意見には、直ちに具体策を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員との関係を密にしており、会話の中で意見や提案を汲み上げてすぐに対応しています。	代表者や施設長は、常に職員と意見交換を行い運営状況を共有している。職員は、代表者による個人面談で、個人的要望も含め意見を述べ、職員間においても業務やケアの充実に取り組むなど、資質向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の実績、職場・家庭環境も把握して、職場環境とメンタル面も含めて勤務条件、勤務環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナのため、外部研修は受けられていませんが、令和2年1月から受け入れている外国人技能実習生の教育に力を入れており、他職員のケアの実際を見直す機会にもなっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ対策のため、交流の機会は作れていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	契約前には、施設長と管理者がご本人と面談をして、安心をして入居頂けるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にご本人との面談時、また、ご本人のいない所で困っていること、不安なこと、要望を丁寧に聞き取り、協力的な関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の困っていること、必要としている支援は何かを見極めて初期対応を行い、他のサービスが必要な場合は対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の能力・力を情報共有して、意欲をもってできることを共に行い、主体的な生活をして頂けるような関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ対策で面会制限のため、ビデオ通話でリモート面会の支援をしています。加えて本人の様子は毎月介護日誌や新聞で、また、機会あるごとに電話でお伝えしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ対策のため、外出や面会ができていません。	コロナ禍により外出や面会も制限がある中、窓越しやリモート面会、年賀状や電話の取り次ぎを行い、利用者や家族の安心に繋げている。以前は、馴染みの甘味処でティータイムや墓参など家族と協力して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者同士の日常の言動や様子を共有して、互いに良い関係を作り支えあえるような支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、家族が訪ねて来られたり、行事への協力を申し出て下さるなど、交流が続き相談があれば応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は日常の関わりの中で聞き取ったことを職員で共有して、本人本位にケアに生かしています。	意思疎通が困難な利用者には、日々寄り添いの中で得られた情報を職員の共有とし、多角的な視点で汲み取り、食器拭きの要望、積極的な階段昇降運動など、利用者の意思を尊重する支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについては、入居前に利用していた事業所からの情報や本人・家族から聞き取り、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居直後から職員間で把握したことを共有し、心身状態、有する力を観察して把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすためにはどのようにして支援したらよいか常に職員間で話し合い、本人・家族とも相談して介護計画を作成しています。	定期的に職員間で利用者の状況確認を行い、ケアプラン策定時は、利用者や家族の意向と医療従事者の意見を取り入れ、担当者会議で支援目標を検討している。ケアプラン実行表で目標の実践が確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入して、複写を家族にお渡ししています。職員間では、申し送りと個人連絡ノートで情報共有しており、実践と介護計画書の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせて、柔軟な支援やサービスを実践しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護予防センターの行事などに入居者も参加させていただいていましたが、現在はコロナ対策のため、参加できていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所は協力関係を築いており、本人と家族の希望で医療を受けて頂いています。	医療機関は、利用者や家族の意向に沿っているが、現在は、全員が月2回、訪問医の診療を受けている。他科受診は、家族と協力して同行支援をしている。週1回の訪問看護師による健康チェックが行われ、健康状態は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護は、週1回の訪問看護師に情報を伝えて相談し、個々の入居者が適切な看護を受けています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院関係者と連携をして、退院後の生活が安心して送ることができるように努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態に変化があった場合は、本人・家族と話し合い、ホームでできることを十分に説明しその後の方針を相談しています。他施設・病院が必要な場合の支援も行っています。	入居時に重度化や終末期の対応を指針で示し、意向確認を行っている。状態悪化時は、利用者や家族の意向、主治医の所見、事業所の態勢を踏まえ関係者と協議している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応は、全ての職員が共有して実践力を身に付ける訓練を行っています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難訓練は年1回、火災避難訓練は年2回行い、運営推進会議時に地域との協力の確認をしています。	年2回の日中・夜間想定避難訓練は、利用者3人が2階から階段を使い1階の玄関に避難している。年1回の水害想定訓練は2時間かけ、1階から2階に避難し、一緒に食事を摂り、居室のベッド下に布団を敷き2人で休む過程で行っている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけについては、日常のケアの中やユニット会議で話し合い個々で努力しています。	研修で排泄時のプライバシー等を学び、適切な接遇への理解に繋げケアに生かしている。言葉遣いなど職員間でも注意し合える関係にあり、親しさの中でも節度ある対応を行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表出し自己決定できるような関わり方をすることの努力をしています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ともすると、職員側の都合で動いてしまいがちになるため、本人のペースを大切にするように職員間で声を掛け合って支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の身だしなみの好みを大切にしています。重ね着し過ぎる時は、声をかけて適度な着衣にして頂いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や食事作りは職員が担当していますが、盛り付け、食器洗いなどは入居者にも手伝って頂いています。	ユニット交互に栄養バランスや彩り、味付けに配慮した献立を作成し、利用者が好む内容の食事作りが行われている。時には、献立をアレンジしたり、おやつに家族から差し入れの焼き芋を食べ、誕生日はケーキでお祝いなど、食の楽しみに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量、形態に合わせた食事を提供し食べやすい食器・道具での自力摂取を見守っています。自力摂取が困難な方は食事の介助をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立で歯磨きできる方には声掛けを、介助が必要な方は、それぞれの方のできないところを介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立以外のトイレで排泄できる方は、本人のサインまたは時間を見て誘導にて排泄支援をしています。ポータブルトイレで排泄するほうが負担が少ない方は、居室で支援しています。	自力排泄での見守り、しぐさで声がけ、排泄チェック表で時間誘導を行うなど、トイレでの排泄を基本としている。利用者の状態によっては、ポータブルトイレや衛生用品を適宜使い分け不快感の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため繊維質の多い食事、毎日の運動の支援をしています。また、排泄チェック表で排便観察をして、内服薬を調整する支援をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の好みに合わせた湯加減、本人の様子に合わせてお誘いする、必要に応じて補助具を使用するなど、寛いで入浴を楽しめる支援をしています。	入浴は、回数、時間、湯加減、同性介助などの要望を取り入れている。自力入浴を見守り、2人介助で湯船に、足湯をしてシャワー浴、身長に合わせて湯船に椅子を置くなど、寛いで入浴できる支援を行い、時には歌や本音が聴かれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠、午睡は本人の好みに合わせて支援しています。就寝時の照明もそれぞれの方の好みに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方・変更された時は個人連絡ノートに記入して職員間で共有しています。副作用などがある場合は、見守りと観察を細かく行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方が意欲をもって取り組めることを情報共有して役割としてお願いし、嗜好品は好みに合わせて用意してお出ししています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ感染が広がっているため、出かせられません。	感染予防対策により外出は自粛しているが、玄関先で外の空気を吸い気分転換ができるよう努めている。代替として室内レクでストレッチやテレビ体操などに力を入れているが、利用者自ら階段を昇り降りしたり、手摺りを使って歩行訓練など体力維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことを希望されている方は現在一人で、いつもがま口をポケットに入れてます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に合わせて取り次ぎ、手紙は、同意を得て一緒に読み上げる支援をしています。ビデオ通話でのリモート面会も取り入れています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、落ち着いた雰囲気や季節を感じていただけるような飾りにしています。湿度・温度を適切にして、換気を適度に行っています。	事業所全体が温湿度や採光、換気、衛生等に配慮がある。玄関には生け花を飾り、共用空間には季節の飾りや利用者の作品である習字、ハートだより等を掲示している。動線に合わせて調度品を設置するなど、利用者が安心・安全に過ごせる環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分にソファや椅子を置いて、自由に座り過ごしていただけるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人と家族の好みにして頂いていますが、事故のリスクや安全の観点から配置を変えたほうが良い場合は、同意を得て行なっています。	6畳ある居室は、利用者が落ち着けるよう馴染みの家具や生活用品が置かれている。レクでの作品や誕生日に事業所から送られた名前ポエムの色紙、お守り、家族写真等が飾られ、居心地の良さが感じられる設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室は見えやすい位置に表示をして一人でも分かるようにしています。迷う方は様子を見ながら職員が誘導して安全で自立できる生活の支援をしています。		